

こまつな に使用可能な農薬一覧表

銚田市農業振興センター
【令和8年1月1日現在】

<殺菌剤>

薬剤名	対象病虫害								希釈倍数 使用量 (散布液量)	使用時期	本剤 使用 回数	使用方法等	有効成分の種類	同左毎の使用回数 <備考>	分類 コード	
	白さび病	うどんこ病	さび病	灰色かび病	斑点細菌病	褐斑細菌病	根こぶ病	萎黄病								その他 病虫害
バスアミド微粒剤/ ガスタード微粒剤							●	●	一年生雑草	20~30kg/10a	は種10日前まで	1回	本剤の所定量を均一に散布して土壌と混和する。	ダゾメット	1回 (殺虫殺菌除草剤)	8F
フロンサイド粉剤							●		立枯病(リゾクトニア菌)	30kg/10a	は種前	1回	全面土壌混和	フルアジナム	1回	29
ネビジン粉剤							●			20~30kg/10a	は種又は定植前	1回	全面土壌混和	フルスルファミド	1回 <非結球あぶらな科葉菜類(なばな類を除く)該当>	36
										20kg/10a	は種又は定植前	1回	作条土壌混和			
リドミル粒剤2	●									10kg/10a	は種前(但し、収穫21日前まで)	1回	全面土壌混和	メタラキシル	2回以内(但し、種子への処理は1回以内、土壌混和は1回以内)	4
アミスター20フロアブル	●								白斑病	2000倍 (100~300L/10a)	収穫7日前まで	2回以内	散布	アゾキシストロビン	3回以内(但し、粒剤は1回以内、水和剤は2回以内)	11
ライメイフロアブル	●									2000~4000倍 (100~300L/10a)	収穫3日前まで	3回以内	散布	アミスルプロム	6回以内(但し、土壌混和は2回以内、灌注は1回以内、散布は3回以内) <非結球あぶらな科葉菜類該当>	21
ランマンフロアブル	●									2000倍 (100~300L/10a)	収穫3日前まで	3回以内	散布	シアゾファミド	3回以内 <非結球あぶらな科葉菜類(なばな類を除く)該当>	21
ジーファイン水和剤	●								軟腐病	1000倍 (150~500L/10a)	収穫前日まで	-	散布	炭酸水素ナトリウム	- <野菜類(なすを除く)該当>	NC
		●								750~1000倍 (150~500L/10a)	収穫前日まで	-	散布	無水硫酸銅	-	MO1
ハーモメイト水溶剤			●	●						800倍 (150~300L/10a)	収穫前日まで	-	散布	炭酸水素ナトリウム	- <野菜類該当>	NC
		●								800~1000倍 (150~300L/10a)	収穫前日まで	-	散布			
カリグリーン			●	●						800倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	-	散布	炭酸水素カリウム	- <野菜類(トマト、ミニトマトを除く)該当>	NC
		●								800~1000倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	-	散布			

※参考資料の作成に当たっては、農薬使用基準の内容について細心の注意をはらっていますが、農薬を使用する時は、必ず、使用する前にはラベルを見て、対象作物、希釈倍数や使用量、使用時期、使用回数等を確認し、農薬の誤った使用を行わないようにしてください。

※農薬散布時には風向、風速、散布位置やノズルの向き等に注意し、周辺作物に農薬が飛散(ドリフト)しないよう注意して行いましょう。特に、周辺作物が収穫期に近い場合は、栽培者と情報交換することが重要です。

※分類コードは、薬剤の有効成分を作用機構別に分類したものです。異なる数字・記号の薬剤でローテーション防除を心がけてください。

<殺菌剤> こまつな

【令和8年1月1日現在】

薬剤名	対象病害虫								希釈倍数 使用量 (散布液量)	使用時期	本剤 使用 回数	使用方法等	有効成分の種類	同左毎の使用回数 <備考>	分類 コード
	白さび病	うどんこ病	さび病	灰色かび病	斑点細菌病	褐斑細菌病	根こぶ病	萎黄病							
ボトキラー水和剤		●		●					1000倍 (150~300L/10a)	発病前~発病初期	-	散布	バチルスズブチリス	-	BM02
				●					300g/10a (6~10L/10a)	発病前~発病初期	-	常温煙霧		<野菜類該当>	
		●							15g/10a/日	発病前~発病初期	-	ダケ外内投入		<野菜類(トマトを除く)該当>	
				●					10~15g/10a/日	発病前~発病初期	-	ダケ外内投入			
Zボルドー					●	●		べと病、黒腐病、 黒斑細菌病	500倍 (100~300L/10a)	発病前~発病初期	-	散布	塩基性硫酸銅	-	M01
								軟腐病	500~1000倍 (100~300L/10a)	発病前~発病初期	-	散布		<野菜類(キャベツを除く)該当>	
ユニフォーム粒剤	●								9kg/10a	は種前	1回	全面土壌混和	メタラキシル及びメタ ラキシルM	2回以内(但し、種子への処理は1回以 内、土壌混和は1回以内)	4
								アゾキシストロビン					3回以内(但し、粒剤は1回以内、水和剤 は2回以内)	11	
スクレアフロアブル								炭疽病	2000倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	3回 以内	散布	マンデストロビン	3回以内 <非結球あぶらな科野菜類該当>	11
マスタピース水和剤								軟腐病	1000~2000倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	-	散布	シュードモナス ロデ シア	-	NC
クプロシールド					●			軟腐病	1000~1500倍 (100~300L/10a)	発病前~発病初期	-	散布	塩基性硫酸銅	-	M01
							べと病	1000~2000倍 (100~300L/10a)	<野菜類該当>						
							ナメクジ類	1000倍 (100~300L/10a)	(殺虫殺菌剤)						
ピシロックフロアブル	●								1000倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	3回 以内	散布	ピカルブトラゾクス	3回以内 <非結球あぶらな科野菜類該当>	U17
リゾレックス水和剤								リゾクトニア病	1000倍 (100~300L/10a)	収穫14日前まで	2回 以内	散布	トルクロホスメチル	3回以内(但し、は種前は1回以内、は種後 は2回以内)	14

※参考資料の作成に当たっては、農薬使用基準の内容について細心の注意をはらっていますが、農薬を使用する時は、必ず、使用する前にはラベルを見て、対象作物、希釈倍数や使用量、使用時期、使用回数等を確認し、農薬の誤った使用を行わないようにしてください。

※農薬散布時には風向、風速、散布位置やノズルの向き等に注意し、周辺作物に農薬が飛散(ドリフト)しないよう注意して行いましょう。特に、周辺作物が収穫期に近い場合は、栽培者と情報交換することが重要です。

※分類コードは、薬剤の有効成分を作用機構別に分類したものです。異なる数字・記号の薬剤でローテーション防除を心がけてください。

こまつな に使用可能な農薬一覧表

銚田市農業振興センター

【令和8年1月1日現在】

<殺虫剤>

薬剤名	対象病害虫										希釈倍数 使用量 (散布液量)	使用時期	本剤 使用 回数	使用方法	有効成分の種類	同左毎の使用回数 <備考>	分類 コード
	ア ブ ラ ム シ 類	シ キ ス ジ ノ ミ ハ ム	ネ キ リ ム シ 類	ヨ ト ウ ム シ 類	ハ モ グ リ バ エ 類	ア オ ム シ	コ ナ ガ	ト ウ シ ロ イ チ モ ジ ヨ	その他 病害虫								
ジェイエース粒剤	●										3~6kg/10a	は種前	1回	作条散布後土壌混和	アセフェート	1回	1B
ダイアジノン粒剤5		●							ケラ		6kg/10a	は種時	1回	全面土壌混和		1回	1B
			●								6kg/10a	は種時又は定植時	1回	全面土壌混和	ダイアジノン		
			●								6kg/10a	出芽時	1回	土壌表面散布			
フォース粒剤		●	●								4kg/10a	は種前	1回	全面土壌混和	テフルトリン	2回以内(但し、は種前までの処理は1回以内、は種後は1回以内) <非結球あぶらな科葉菜類(からしなを除く)該当>	3A
			●								4kg/10a	収穫14日前まで	1回	株元散布			
スタークル粒剤/ アルバリン粒剤	●	●									6kg/10a	は種時	1回	播溝土壌混和	ジノテフラン	3回以内(但し、は種時の土壌混和は1回以内、散布は2回以内) <非結球あぶらな科葉菜類(フゲンソイを除く)該当>	4A
スタークル顆粒水溶剤	●										3000倍 (100~300L/10a)	収穫3日前まで	2回 以内	散布	ジノテフラン	3回以内(但し、は種時の土壌混和は1回以内、散布は2回以内) <非結球あぶらな科葉菜類(フゲンソイ、畑わさびを除く)該当>	4A
		●									2000倍 (100~300L/10a)	収穫3日前まで	2回 以内	散布			
アクタラ粒剤5	●										6kg/10a	は種時	1回	作条混和	チアメトキサム	3回以内(但し、は種時の作条混和は1回以内、は種後は2回以内)	4A
アクタラ顆粒水溶剤	●										2000倍 (100~300L/10a)	収穫3日前まで	2回 以内	散布	チアメトキサム	3回以内(但し、は種時の作条混和は1回以内、は種後は2回以内)	4A

※参考資料の作成に当たっては、農薬使用基準の内容について細心の注意をはらっていますが、農薬を使用する時は、必ず、使用する前にはラベルを見て、対象作物、希釈倍数や使用量、使用時期、使用回数等を確認し、農薬の誤った使用を行わないようにしてください。

※農薬散布時には風向、風速、散布位置やノズルの向き等に注意し、周辺作物に農薬が飛散(ドリフト)しないよう注意して行いましょう。特に、周辺作物が収穫期に近い場合は、栽培者と情報交換することが重要です。

※分類コードは、薬剤の有効成分を作用機構別に分類したものです。異なる数字・記号の薬剤でローテーション防除を心がけてください。

<殺虫剤> こまつな

【令和8年1月1日現在】

薬剤名	対象病害虫									希釈倍数 使用量 (散布液量)	使用時期	本剤 使用 回数	使用方法	有効成分の種類	同左毎の使用回数 <備考>	分類 コード
	ア ブ ラ ム シ 類	シ キ ス ジ ノ ミ ハ ム	ネ キ リ ム シ 類	ヨ ト ウ ム シ 類	ハ モ グ リ バ エ 類	ア オ ム シ	コ ナ ガ	ト ウ シ ロ イ チ モ ジ ヨ	その他 病害虫							
ランネート45DF	●									1000倍 (100~300L/10a)	収穫14日前まで	3回 以内	散布	メソミル	3回以内	1A
マトリックフロアブル				●						2000倍 (100~300L/10a)	収穫14日前まで	3回 以内	散布	クロマフェノジド	3回以内 <非結球あぶらな科葉菜類該当> (昆虫成長制御剤)	18
スピノエース顆粒水和剤				●	●	●	●	ハイマダラノメイ ガ、アザミウマ類		2500~5000倍 (100~300L/10a)	収穫14日前まで	2回 以内	散布	スピノサド	2回以内 <非結球あぶらな科葉菜類(みずな、非結球はくさいを除く)該当>	5
モスピラン顆粒水溶剤/ モスピラン水溶剤	●	●						カブラハバチ		4000倍 (100~300L/10a)	収穫7日前まで	1回	散布	アセタミプリド	1回 <非結球あぶらな科葉菜類(チンゲンサイを除く)該当>	4A
カスケード乳剤						●	●	マメハモグリバエ		2000倍 (100~300L/10a)	収穫7日前まで	2回 以内	散布	フルフェノクスロン	2回以内 <非結球あぶらな科葉菜類(なばな類を除く)該当> (昆虫成長制御剤)	15
コテツフロアブル						●	●	ハクサイダニ		2000倍 (100~300L/10a)	収穫3日前まで	1回	散布	クロルフェナピル	1回	13
アフーム乳剤							●			2000倍 (100~300L/10a)	収穫3日前まで	2回 以内	散布	エマメクチン安息香 酸塩	2回以内	6
アグロスリン乳剤	●									2000倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	2回 以内	散布	シベルメトリン	2回以内 <非結球あぶらな科葉菜類(チンゲンサイを除く) 該当>	3A
デルフィン顆粒水和剤						●	●	●	ウリノメイガ、オ オタバコガ、ハス モンヨトウ	1000倍 (100~300L/10a)	発生初期(但し、収 穫前日まで)	—	散布	B T (生菌)	— <野菜類(トマト、ミニトマトを除く)該当>	11A
プレバソンフロアブル5					●		●			2000倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	2回 以内	散布	クロラントラニリプ ロール	2回以内 <非結球あぶらな科葉菜類(タアサイ、非結球はく さい、なばな類を除く)該当>	28

※参考資料の作成に当たっては、農薬使用基準の内容について細心の注意をはらっていますが、農薬を使用する時は、必ず、使用する前にはラベルを見て、対象作物、希釈倍数や使用量、使用時期、使用回数等を確認し、農薬の誤った使用を行わないようにしてください。

※農薬散布時には風向、風速、散布位置やノズルの向き等に注意し、周辺作物に農薬が飛散(ドリフト)しないよう注意して行いましょう。特に、周辺作物が収穫期に近い場合は、栽培者と情報交換することが重要です。

※分類コードは、薬剤の有効成分を作用機構別に分類したものです。異なる数字・記号の薬剤でローテーション防除を心がけてください。

<殺虫剤> こまつな

【令和8年1月1日現在】

薬剤名	対象病害虫									希釈倍数 使用量 (散布液量)	使用時期	本剤 使用 回数	使用方法	有効成分の種類	同左毎の使用回数 <備考>	分類 コード
	ア ブ ラ ム シ 類	シ キ ス ジ ノ ミ ハ ム	ネ キ リ ム シ 類	ヨ ト ウ ム シ 類	ハ モ グ リ バ エ 類	ア オ ム シ	コ ナ ガ	ト シ ロ イ チ モ ジ ヨ	その他 病害虫							
アカリタッチ乳剤									うどんこ病	2000倍 (100~400L/10a)	収穫前日まで	-	散布	プロピレングリコー ルモノ脂肪酸エステ ル	- <野菜類該当> (殺虫殺菌剤)	-
									ハダニ類	1000~3000倍 (100~400L/10a)	収穫前日まで	-	散布			
ダントツ水溶剤	●									2000~4000倍 (100~300L/10a)	収穫3日前まで	3回 以内	散布	クロチアニジン	4回以内(但し、は種時の土壌混和は1回 以内、散布は3回以内)	4A
ウララDF	●									4000倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	2回 以内	散布	フロニカミド	2回以内 <非結球あぶらな科葉菜類該当>	29
アクセルフロアブル		●								1000倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	3回 以内	散布	メタフルミゾン	3回以内 <非結球あぶらな科葉菜類該当>	22B
									ハスモンヨトウ	2000倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	3回 以内	散布			
アニキ乳剤		●			●	●			ハスモンヨトウ	1000~2000倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	3回 以内	散布	レピメクチン	3回以内 <非結球あぶらな科葉菜類該当>	6
ディアナSC				#	●	●	●		ハスモンヨトウ、 アザミウマ類、ハ イマダラノメイガ	2500~5000倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	2回 以内	散布	スピネトラム	2回以内	5
									ハクサイダニ	2500倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	2回 以内	散布			
プレオフロアブル							●	●	ハスモンヨトウ	1000倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	2回 以内	散布	ピリダリル	2回以内	UN
エコマスターBT						●	●	●		1000~2000倍 (100~300L/10a)	発生初期 (但し、収穫前日ま で)	-	散布	BT (生菌)	- <野菜類該当>	11A
				#					オオタバコガ、 ハスモンヨトウ	1000倍 (100~300L/10a)	発生初期 (但し、収穫前日ま で)	-	散布			
ブロフレアSC		●				●	●			2000~4000倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	3回 以内	散布	ブロフラニリド	3回以内 <非結球あぶらな科葉菜類該当>	30

#：「ヨトウムシ」で登録

※参考資料の作成に当たっては、農薬使用基準の内容について細心の注意をはらっていますが、農薬を使用する時は、必ず、使用する前にはラベルを見て、対象作物、希釈倍数や使用量、使用時期、使用回数等を確認し、農薬の誤った使用を行わないようにしてください。

※農薬散布時には風向、風速、散布位置やノズルの向き等に注意し、周辺作物に農薬が飛散（ドリフト）しないよう注意して行いましょう。特に、周辺作物が収穫期に近い場合は、栽培者と情報交換することが重要です。

※分類コードは、薬剤の有効成分を作用機構別に分類したものです。異なる数字・記号の薬剤でローテーション防除を心がけてください。

<殺虫剤>こまつな

【令和8年1月1日現在】

薬剤名	対象病害虫									希釈倍数 使用量 (散布液量)	使用時期	本剤 使用 回数	使用方法	有効成分の種類	同左毎の使用回数 <備考>	分類 コード		
	ア ブ ラ ム シ 類	ム キ ス ジ ノ ミ ハ	ネ キ リ ム シ 類	ヨ ト ウ ム シ 類	類 ハ モ グ リ バ エ	ア オ ム シ	コ ナ ガ	ヨ シ ロ イ チ モ ジ	その他 病害虫									
アルバリン顆粒水溶剤	●									3000倍 (100~300L/10a)	収穫3日前まで	2回 以内	散布	ジノテフラン	3回以内(但し、は種時の土壌混和は1回 以内、散布は2回以内) <非結球あぶらな科葉菜類(チゲンサイ、畑わさびを除く)該当>	4A		
		●								2000倍 (100~300L/10a)	収穫3日前まで	2回 以内						
トランスフォームフロアブル	●									2000倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	3回 以内	散布	スルホキサフロル	3回以内 <非結球あぶらな科葉菜類該当>	4C		
ヨーバルフロアブル										200倍 (\$参照)	定植前日~定植当日	1回	灌注	テトラニリプロール	3回以内(但し、灌注は1回以内、散布は2 回以内)	28		
										2500~5000倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	2回 以内	散布					
マッチ乳剤										2000倍 (100~300L/10a)	収穫3日前まで	3回 以内	散布	ルフェヌロン	3回以内 <非結球あぶらな科葉菜類該当> (昆虫成長制御剤)	15		
アディオン乳剤									●		ハクサイダニ	2000倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	3回 以内	散布	ペルメトリン	3回以内	3A
ナメクリーン3											ナメクジ類	1~3kg/10a	収穫3日前まで	2回 以内	株元散布	メタアルデヒド	6回以内(但し、株元散布は2回以内) <非結球あぶらな科葉菜類該当>	-

\$: セル成型育苗トレイ1箱またはペーパーポット1冊(約30×60cm、使用土壌約1.5~4L)あたり0.5L

※参考資料の作成に当たっては、農薬使用基準の内容について細心の注意を払っていますが、農薬を使用する時は、必ず、使用する前にはラベルを見て、対象作物、希釈倍数や使用量、使用時期、使用回数等を確認し、農薬の誤った使用を行わないようにしてください。

※農薬散布時には風向、風速、散布位置やノズルの向き等に注意し、周辺作物に農薬が飛散(ドリフト)しないよう注意して行いましょう。特に、周辺作物が収穫期に近い場合は、栽培者と情報交換することが重要です。

※分類コードは、薬剤の有効成分を作用機構別に分類したものです。異なる数字・記号の薬剤でローテーション防除を心がけてください。